

アクアテール35

宮崎県新技術活用促進システム登録

工法概要

【流水に対応できる形状に進化させ、省力化・仮設工低減による工期短縮】

アクアテール35は河川構造物として“国土交通省 河川砂防技術基準”に準拠した壁厚35cmかつシンプルな継手形状とし、「壁面形状・部材・施工の簡素化」を念頭においた新商品です。これまでの水中テールアルメ「カラーウォール工法」に比べ「省力化・省資材化」を実現。壁面工のプレキャスト化により「足場工」が不要となり、「工期短縮・トータルコスト削減」を実現しました。

特徴

1

壁厚を厚くし、流水に対する安定性確保（塩害地域の適用も可能）

パネル形状は矩形。壁厚は35cm。従来パネル（十字形）に比べ重量が約2.4倍。壁面材の鉄筋被りも90mmと厚く、塩害対策地域への適用も可能。

2

幅広ストリップの使用により、補強材延長を削減

使用ストリップは従来比1.33倍の摩擦力を有する幅広タイプ。補強材の最適配置により補強材延長の低減が可能となり、工期短縮とコスト削減を実現。

3

盛土層厚の改善により、総転圧回数を低減（層厚25cm 30cm）

補強材の最適配置とともに、盛土層厚を改善。一般の盛土層厚30cmでの施工が可能のため、総転圧回数が低減されます。

4

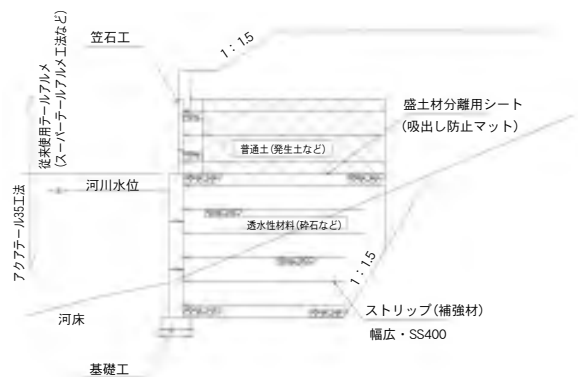
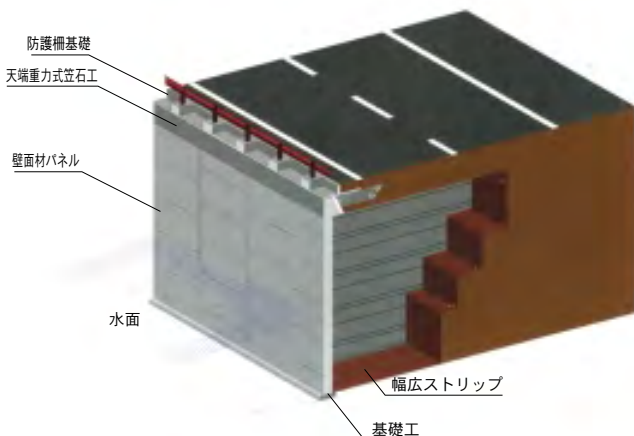
抜群の安定感で施工時の微調整が軽減されました

壁厚は35cmと安定感は抜群なため、壁面材設置時の傾斜などの微調整は不要です。

5

テールアルメ工法との併用が可能です

アクアテール35の天端用製品は従来製品が敷設できるような天端形状としており、水位の影響のない一般部は、より経済的な従来製品（スーパーテールアルメ工法など）の併用が可能です。



【アクアテール35と従来工法の併用した事例】

※1 塩害対策における対策区分によっては、一部採用できない場合があります。

アクアテール35

盛土材料

盛土材料は透水性の良い“粗粒材”

補強土範囲で水位以下となる場合は、砕石などの【排水性の良い粗粒材】による盛土を行いません。
砕石以外の粗粒材料については「スレーキング現象（乾湿の繰返しによる細粒化）に対する注意が必要です。

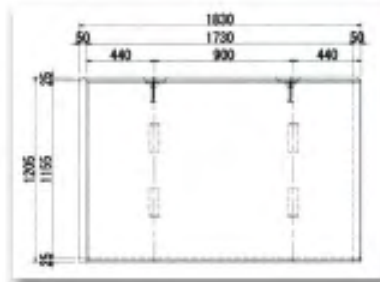
部材概要



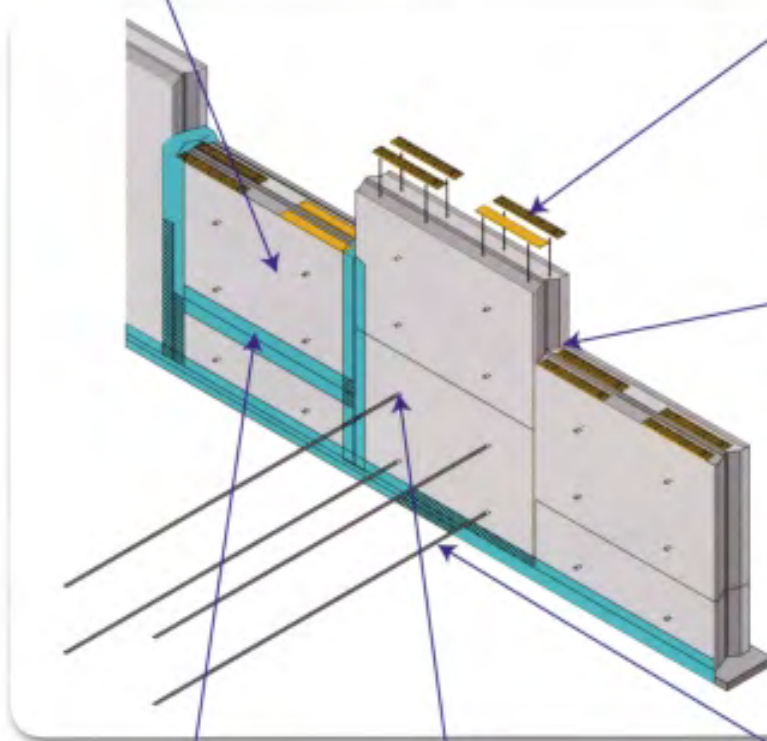
【壁面材パネル】

【標準パネル】

標準パネルのストリップの取付本数は、
3本から8本



【高密度コルテ(水平目地材)】



【継手形状】
シンプルな継手形状



【透水防砂材】



【ボルト・ナット】



【ストリップ(補強材)】

(右)幅広ストリップ
SS400 ←(使用補強材)
4.0mm厚 80mm(幅)×L(長さ)
(左)従来ストリップ
SM490A
4.0mm厚 60mm(幅)×L(長さ)

アクアテール35

用途事例（国内・道路）



【中部地区】

延長:137m

総面積:420㎡

壁高:4.20m

河川水位以下:アクアテール35

河川水位以上:従来タイプ

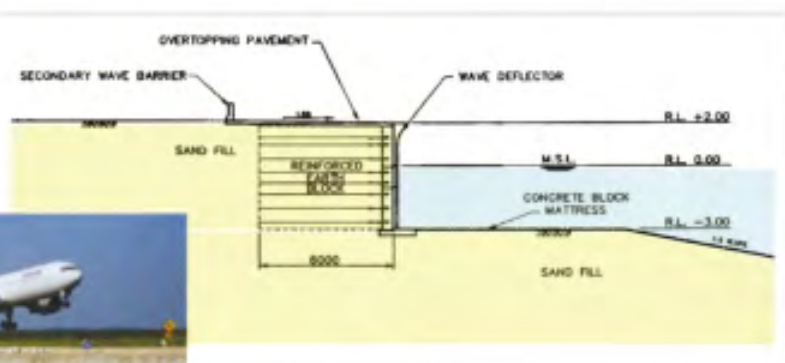
用途事例（海外・港湾）

【オーストラリア・シドニー空港】

総延長:8.5km

総面積:40,000㎡

壁高:4.0~6.0m



【インドネシア・ホニアラ(ガダルカナル)】

